

## 2020年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

### 1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	ふしみ やすこ				
教員氏名	伏見 康子		職 位	准教授	学 位 博士（経営学）
アルファベット表記	Fushimi Yasuko				
専門分野		会計学			
研究課題	テーマ	簿記会計教育に関する研究			
	概要	簿記教育および会計教育のあり方について研究を続けた。簿記検定合格という狭い短期的な目標ではなく、会計(学)の役割を理解したうえで、その知識を実際の企業活動や企業人としての業務活動において、より適切に活用できるような人材の育成を目指す。そのためのカリキュラムや講義内容、さらに具体的な教授法について検討していく。			
本年度 研究業績	研究費	総額： 250,000 円 内訳：個人研究費 150,000 円 / 科学研究費 円 そ の 他 100,000 円			
	研究テーマ	簿記教育、会計教育			
	経過と到達点	<p>今年度は、簿記教育におけるオンライン授業の対応と会計学の入門科目における新たな授業展開の方法に取り組んだ。とくに前期のオンライン授業では、簿記の特徴である「記録」という行為を受講生がしっかりと取り組んでいるのか、その状況が見えない環境であった。Zoom のチャット機能を活用しながら学生の状況を把握して、可能な限り質問にも対応した。きちんと聞いている学生からは「わかりやすかった」との評価であり、簿記におけるオンライン授業の可能性を見出すことができた。</p> <p>会計学入門では、会計の役割と読み方については変わらないが、これまで、会計基準の解説や背景の説明を中心に取り上げてきた部分を変更した。テキストも変更して、利益計算するための根本的な考え方や、会計基準作成における論争など、さまざまな考え方があること、会計の実践においても「判断」する場面があることを取り上げた。近年の会計基準では原則主義を取り、原則ルールをもとに各企業の実態に合わせてどのように適用するか、多くの面で作成者の判断が必要となる。そのような判断の基礎となる考え方を教授できたと考える。</p>			

#### (1) 学術論文

論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
--------	--------------	------------	-------	----

①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文					
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等					
⑦学会での口頭発表、討論者(ディスカッサント)	会計教育におけるアクティブ・ラーニング(実践報告)	2020年9月	単	京都経済短期大学経営・情報学会	会計記録の対象となる取引には、行為者の様々な意思決定が含まれており、それが結果の利益数値に影響する。その現実を理解し、実践的に会計を活用できる能力を身につけるためのアクティブ・ラーニング手法を活用した。具体的には会計シミュレーションゲームを活用し、商品の購入や従業員の雇用、借り入れなどの経営判断を行いながら、利益計算をしていくことで、経営(意思決定)と会計のつながりを理解できたかどうかを検証していく。

## (2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・共訳書				
⑨単著書・単訳書				

## (3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				
⑫共同研究 (分担研究)				

⑬科学研究 助成事業(日 本学術振興 会)申請				
----------------------------------	--	--	--	--

## 2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	初級簿記、簿記特講Ⅰ、財務会計論	簿記特講Ⅱ、会計学入門、 中級簿記Ⅱ 中級簿記Ⅰ
	演習	基礎ゼミナール、ゼミナールⅡ	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅢ
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目 今年度はオンライン授業への対応が大きな課題となったが、予想以上に成果を上げることができたと考える。簿記科目では、非常勤講師4名との打合せを密に行い、授業を実施してきた。全体講義と演習時間・質問対応の時間に分けて実施し、チャット機能などを活用して個別質問にも対応できた。その結果、定期試験の点数は例年よりもやや高い平均点となった。簿記特講Ⅰ・簿記特講Ⅱのクラスについては学生の理解度に合わせて編成し、それぞれ理解度に合わせて演習問題に取り組めるよう授業内容を組み立てた。 財務会計論では、これまでの対面授業では計算問題に取り組んでもらいそれを通して理解度の確認などを行ってきたが、オンライン授業となったため方向転換をした。教員が解説するのではなく、会計実務におけるさまざまな質問を準備し、学生に「どうしたら良いか、その答えとその答えを選択した理由を説明せよ」という問いに答えてもらった。これによって、受講生は受け身で参加するのではなく、自発的に考えていくことが増え、授業へのコミットも高くなった。「考えることが面白かった」というコメントが多く見られた。		
	◆ 演習科目 1回生の基礎ゼミナールでは、グループを作って学生が時間管理をしながら意見交換を行い、全員の前で発表するなど、学生の自立や主体的な姿勢の養成を図った。その結果、学生が主体的に運営し、様々な意見や考え方があることを理解し、自主的に発言もできるようになった。オンライン授業のため学生同士の交流機会が少ないことに配慮して、自由な交流の時間も確保したことで学生の議論も活発になった。 2回生のゼミナールⅡおよびⅢでは、毎回2、3組が各チームの卒業論文を発表し、その内容について学生が中心となって質疑応答をするよう進めた。回を重ねるにつれて発言の内容が深いものとなり、学生の成長がみられた。ゼミの時間だけでは十分な指導ができないため、9チームそれぞれ時間外での個別指導を行った。 1回生のゼミナールⅠでは、秋華祭の模擬店を具体的な題材として簿記・会計や経営について理解を深めさせるよう取り組んだ。多くの場面でグループを作り、さまざまなテーマについて議論し発表する活動を取り入れ、主体的に考えて発言する機会を増やした。		

	実習科目
	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）

## (1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	

## 3. 社会・学会活動（本年度のみ）

## （1）公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	
④委員・アドバイザー 上記以外	

## （2）学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

## （3）講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者・学会座長	

## 4. 特記事項（本年度のみ）

勉強会や課外活動を下記の通り実施した（予定も含む）。

- ① 11月簿記検定対策勉強会（希望者、10月1日～11月14日、毎週月曜5限・水曜5限、土曜日2回）
- ② 会計ゲーム研修（1回生ゼミ生、2回生ゼミ生希望者、2月5日13時～16時予定）
- ③ 2月簿記検定勉強会（2級受験予定者、他希望者、2月3日～26日、7回予定、各3時間）
- ④ 1・2回生交流会（1回生ゼミ生、2回生ゼミ生、3月5日10時30分～12時、オンライン）